

14時30分解禁

平成30年6月 全国百貨店売上高概況

平成30年7月24日

I. 概況

1. 売上高総額	4,869億円余
2. 前年同月比	3.1% (店舗数調整後/2か月ぶりプラス)
3. 調査対象百貨店	80社 220店 (平成30年5月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,546,072㎡ (前年同月比: -3.3%)
5. 総従業員数	70,051人 (前年同月比: -3.7%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	11-1月 0.1%、12-2月 -0.9%、1-3月 -0.7%、 2-4月 0.0%、3-5月 -0.4%、4-6月 0.6%

[参考] 平成29年6月の売上高増減率は1.4% (店舗数調整後)

【特徴】

6月の売上高は3.1%増と2か月ぶりにプラスに転じた。大阪北部地震で一部店舗の営業時間減少など若干の影響があったが、下旬にスタートしたクリアランスの前倒し効果や気温上昇による季節需要の高まり、土曜日1日増などのプラス与件が重なり、当月の商況を好転させた。その結果、主力の衣料品が7か月ぶりに前年をクリア。高額消費やインバウンドも引き続き好調で、中期トレンドを示す3か月移動平均値もプラス転換した。

顧客別では、インバウンド(シェア5.8%)が、端午節休暇(6/16~6/18)もあり約281億円(52.5%増)と活況に推移。国内市場(シェア94.2%/1.1%増)も7か月ぶりに前年をクリアした。

地区別では、10都市が4.9%増と2か月ぶりにプラス。9地区において対前年増となった一方、地方(10都市以外の地区)は1.0%減と、前月(6.1%減)に比べマイナス幅は改善したものの都市と地方の格差は同水準(5.9ポイント)で推移した。

商品別では、前倒しによるセール期間の増加で衣料品が4.3%増と高伸。細分類の紳士服(5.5%増)、婦人服(4.7%増)、子供服(5.1%増)いずれもプラスに転じた。身のまわり品(6.0%増/6か月連続)は、ラグジュアリーブランドが牽引する形で好調に推移。雑貨(9.5%増/19か月連続)も増勢を維持しており、二桁増の化粧品(15.8%増)とストック効果が続く高額商材(美術・宝飾・貴金属/6.3%増)に加え、その他雑貨(0.1%増)も14か月ぶりに前年を超えた。

家庭用品では家具がプラス(5.6%増)したが、売場リースの影響もあり全体ではマイナス(3.0%減)。食料品(1.5%減)は一部で改装効果が見られたものの、前年には届かなかった。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「6月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇平均気温は全国的に高かったが、北海道地方では、低気圧や前線の影響で、降水量がかなり多かった。また、東日本太平洋側では日照時間がかなり多く、東・西日本日本海側でも多かった。

(2) 営業日数増減 29.8日(前年同月比 -0.1日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日(// +1日/土曜1日増)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数120店舗)

①増加した：49店、②変化なし：33店、③減少した：38店

(5) 6月歳時記(中元、父の日)の売上(同上/有効回答数89店舗)

①増加した：10店、②変化なし：50店、③減少した：29店

全国百貨店 売上高速報 2018年06月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	486,996,803	100.0	3.1 (3.2)
10都市	345,801,630	71.0	4.9 (5.9)
札幌	12,467,075	2.6	4.3
仙台	6,212,935	1.3	0.9
東京	140,686,566	28.9	6.9
横浜	31,150,090	6.4	4.9
名古屋	32,464,217	6.7	10.0
京都	19,376,843	4.0	3.1
大阪	65,695,151	13.5	6.8
神戸	11,353,867	2.3	-32.7 (-5.1)
広島	9,897,383	2.0	0.0
福岡	16,497,503	3.4	7.6
10都市以外の地区	141,195,173	29.0	-1.0 (-3.0)
北海道	1,411,408	0.3	-1.3
東北	6,789,206	1.4	-4.3 (-7.3)
関東	64,182,691	13.2	0.9 (-4.6)
中部	11,010,982	2.3	1.7 (1.2)
近畿	17,755,144	3.6	-13.1 (-7.0)
中国	10,682,736	2.2	-1.0
四国	7,611,194	1.6	2.2
九州	21,751,812	4.5	2.0

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	486,996,803	100.0	3.1 (3.2)
紳士服・洋品	31,514,871	6.5	5.5 (5.3)
婦人服・洋品	90,874,486	18.7	4.7 (4.5)
子供服・洋品	8,891,522	1.8	5.1 (5.5)
その他衣料品	9,838,721	2.0	-3.1 (-3.8)
衣 料 品	141,119,600	29.0	4.3 (4.1)
身のまわり品	63,498,626	13.0	6.0 (6.0)
化粧品	46,513,733	9.6	15.8 (16.0)
美術・宝飾・貴金属	31,735,487	6.5	6.3 (6.3)
その他雑貨	16,870,513	3.5	0.1 (2.0)
雑 貨	95,119,733	19.5	9.5 (10.0)
家 具	4,951,972	1.0	5.6 (5.1)
家 電	982,539	0.2	-29.3 (-29.4)
その他家庭用品	13,456,395	2.8	-3.3 (-3.4)
家 庭 用 品	19,390,906	4.0	-3.0 (-3.2)
生 鮮 食 品	27,400,947	5.6	-3.0 (-2.8)
菓 子	35,157,945	7.2	-1.2 (-1.6)
惣 菜	28,542,658	5.9	-1.3 (-1.3)
その他食料品	48,156,416	9.9	-1.0 (-0.4)
食 料 品	139,257,966	28.6	-1.5 (-1.4)
食 堂 喫 茶	12,581,312	2.6	-1.2 (-1.5)
サ ー ビ ス	4,885,561	1.0	-0.4 (-0.8)
そ の 他	11,143,099	2.3	-0.1 (-0.2)
商 品 券	16,044,634	3.3	-2.8 (-4.3)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、

総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | 4.9% (店舗数調整後／2か月ぶりプラス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -1.0% (店舗数調整後／14か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	4.9	3.4	2か月ぶりプラス
札幌	4.3	0.1	5か月連続プラス
仙台	0.9	0.0	5か月ぶりプラス
東京	6.9	1.9	5か月連続プラス
横浜	4.9	0.3	3か月ぶりプラス
名古屋	10.0	0.6	3か月連続プラス
京都	3.1	0.1	2か月ぶりプラス
大阪	6.8	0.9	18か月連続プラス
神戸	-32.7	-0.8	10か月連続マイナス
広島	+0.0	0.0	21か月ぶりプラス
福岡	7.6	0.2	11か月連続プラス
10都市以外の地区	-1.0	-0.3	14か月連続マイナス
北海道	-1.3	0.0	21か月連続マイナス*
東北	-4.3	-0.1	10か月連続マイナス*
関東	0.9	0.1	3か月ぶりプラス
中部	1.7	0.0	13か月ぶりプラス
近畿	-13.1	-0.5	16か月連続マイナス
中国	-1.0	0.0	3か月連続マイナス*
四国	2.2	0.0	7か月ぶりプラス
九州	2.0	0.1	7か月ぶりプラス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が19か月連続、身のまわり品が6か月連続、衣料品が7か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が30か月連続、食料品が13か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が39か月連続、美術・宝飾・貴金属が15か月連続、家具が2か月連続、紳士服・洋品、婦人服・洋品が3か月ぶり、子供服・洋品が9か月ぶり、その他雑貨が14か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	3.1	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	5.5	0.3	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	4.7	0.9	3か月ぶりプラス
子供服・洋品	5.1	0.1	9か月ぶりプラス
その他衣料品	－3.1	－0.1	32か月連続マイナス
衣料品	4.3	1.2	7か月ぶりプラス
身のまわり品	6.0	0.8	6か月連続プラス
化粧品	15.8	1.3	39か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	6.3	0.4	15か月連続プラス*
その他雑貨	0.1	0.0	14か月ぶりプラス*
雑貨	9.5	1.7	19か月連続プラス
家具	5.6	0.1	2か月連続プラス
家電	－29.3	－0.1	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	－3.3	－0.1	27か月連続マイナス
家庭用品	－3.0	－0.1	30か月連続マイナス
生鮮食品	－3.0	－0.2	51か月連続マイナス*
菓子	－1.2	－0.1	7か月連続マイナス*
惣菜	－1.3	－0.1	9か月連続マイナス*
その他食料品	－1.0	－0.1	3か月連続マイナス*
食料品	－1.5	－0.5	13か月連続マイナス
食堂喫茶	－1.2	0.0	14か月連続マイナス
サービス	－0.4	0.0	7か月連続マイナス
その他	－0.1	0.0	2か月連続マイナス
商品券	－2.8	－0.1	88か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成30年6月 東京地区百貨店売上高概況

平成30年7月24日

I. 概況

1. 売上高総額	1,406億円余
2. 前年同月比	6.9% (5か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭8.4%(91.3%) : 非店頭-6.9%(8.7%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成30年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	841,362㎡ (前年同月比:-0.7%)
6. 総従業員数	18,286人 (前年同月比:-1.6%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 1.5%、12-2月 0.5%、1-3月 0.1%、 2-4月 0.8%、3-5月 1.0%、4-6月 3.4%

【参考】平成29年6月の売上高増減率は1.1%

【特徴】

- (1) 6月の東京地区入店客数は、5.8%増と8か月連続プラス。クリアランスセール前倒しや各社企画・催事に加え、例年より早い梅雨明けや気温上昇も後押しした。売上高も5か月連続プラスの6.9%と前月より5.6ポイントアップ。主力の衣料品をはじめ主要4品目で前年をクリアし、盛夏物アイテムやUV関連商品を中心に好調推移した。クリアランスでは、プロパー（正価）商品が高い伸びを示す店舗も見られ、価値志向を重視した消費者の購買行動が窺える。
- (2) 商品別では、衣料品が11.4%増と二桁の高い伸び（2015年4月以来）。紳士服、婦人服、子供服ともに二桁増で、紳士服はシャツ、カットソー、スラックス、婦人服ではワンピース、ブラウス、スカートなどが動いた。
- (3) また、インバウンドと高額消費の増勢を受け、ラグジュアリーブランドなど身のまわり品、化粧品や高額品（美術・宝飾・貴金属）などの雑貨も引き続き好調。食料品は2か月連続増であったが、生鮮食品は前年に届かなかった。家庭用品は家電の前年外商特需の反動減によりマイナス。
- (4) 暑さが本格化する中、ビアガーデンが活況。テーマ性を打ち出すなど付加価値のある新しい場の創出の人气が高まっている。中元商戦では、店頭売上をネット受注がカバーしほぼ前年並みとなった。
- (5) 7月中間段階の商況は、5.5%減（7/18）で推移。下旬には、「プレミアムフライデー」を活用した「プレミアム サマー バザール」を開催し、クリアランスセールを中心に各店様々な催事を展開する。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見る傾向値／前年同月比／有効回答数19店舗）
①増加した：11店、②変化なし：3店、③減少した：5店
- (3) 6月歳時記（中元、父の日）の売上（同上／有効回答数12店舗）
①増加した：2店、②変化なし：6店、③減少した：4店

東京地区百貨店 売上高速報 2018年06月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	140,686,566	100.0	6.9
紳士服・洋品	10,833,254	7.7	11.5
婦人服・洋品	23,105,252	16.4	12.1
子供服・洋品	2,183,848	1.6	14.5
その他衣料品	2,436,378	1.7	2.3
衣 料 品	38,558,732	27.4	11.4
身のまわり品	19,623,454	13.9	10.8
化粧品	14,510,421	10.3	21.0
美術・宝飾・貴金属	9,776,960	6.9	3.4
その他雑貨	5,638,862	4.0	9.8
雑 貨	29,926,243	21.3	12.6
家 具	1,474,384	1.0	14.1
家 電	615,449	0.4	-37.5
その他家庭用品	3,661,697	2.6	2.0
家 庭 用 品	5,751,530	4.1	-2.0
生 鮮 食 品	5,722,756	4.1	-1.3
菓 子	10,016,730	7.1	1.2
惣 菜	7,135,644	5.1	0.5
その他食料品	14,846,144	10.6	0.5
食 料 品	37,721,274	26.8	0.4
食 堂 喫 茶	3,056,154	2.2	2.3
サ ー ビ ス	2,046,389	1.5	0.5
そ の 他	4,002,790	2.8	-6.2

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	4,419,502 千円	2.9
従 業 員 数	18,286 人	-1.6
店 舗 面 積	841,362 m ²	-0.7

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が19か月連続、身のまわり品が6か月連続、食料品が2か月連続、衣料品が2か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が2か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が39か月連続、美術・宝飾・貴金属が14か月連続、その他雑貨が7か月連続、家具、その他食料品が2か月連続、紳士服・洋品、婦人服・洋品、子供服・洋品が2か月ぶり、菓子、惣菜が6か月ぶり、その他衣料品が9か月ぶり、その他家庭用品が15か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	6.9	—	5か月連続プラス
紳士服・洋品	11.5	0.8	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	12.1	1.9	2か月ぶりプラス
子供服・洋品	14.5	0.2	2か月ぶりプラス
その他衣料品	2.3	0.0	9か月ぶりプラス
衣料品	11.4	3.0	2か月ぶりプラス
身のまわり品	10.8	1.5	6か月連続プラス
化粧品	21.0	1.9	39か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	3.4	0.2	14か月連続プラス*
その他雑貨	9.8	0.4	7か月連続プラス*
雑貨	12.6	2.5	19か月連続プラス
家具	14.1	0.1	2か月連続プラス
家電	-37.5	-0.3	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	2.0	0.1	15か月ぶりプラス
家庭用品	-2.0	-0.1	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-1.3	-0.1	28か月連続マイナス*
菓子	1.2	0.1	6か月ぶりプラス*
惣菜	0.5	0.0	6か月ぶりプラス*
その他食料品	0.5	0.1	2か月連続プラス*
食料品	0.4	0.1	2か月連続プラス
食堂喫茶	2.3	0.1	10か月ぶりプラス
サービス	0.5	0.0	3か月ぶりプラス
その他	-6.2	-0.2	6か月連続マイナス
商品券	2.9	0.1	3か月連続プラス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>